

会議の開催結果について

- 1 会議名 第2回上尾市上平地区複合施設検討委員会
- 2 会議日時 令和2年2月10日(月)
午後5時30分から午後7時05分
- 3 開催場所 上尾市役所行政棟3階 庁議室
- 4 会議の議題 ①市民ワークショップの結果について
②複合施設(案)・付加機能(案)の検討について
③今後のスケジュールについて
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 3名
- 8 問い合わせ先 行政経営部施設課(775-5115)
(担当課)

会 議 録

会議の名称		第2回上尾市上平地区複合施設検討委員会	
開催日時		令和2年2月10日(月)午後5時30分から午後7時05分	
開催場所		上尾市役所行政棟3階 庁議室	
議長(委員長・会長)氏名		佐藤徹	
出席者(委員)氏名		佐藤徹、深堀清隆、金野千恵、高橋正一、小川厚則、鈴木玲子、古沢輝	
欠席者(委員)氏名		志村秀明、山下三佐子、岡村博憲	
事務局(庶務担当)		子ども未来部保育課 藤波伴安主幹 教育総務部図書館 島田栄一館長、山内正博主幹 行政経営部 栗野昭夫部長 行政経営部施設課 小田川史明次長兼課長、中釜勝己主幹、 吉備則子副主幹、岸崇史主査、佐藤泰彦主任、 鈴木崇之主事、池田誠宏主査(文責)	
会議事項	1 議 題	2 会議結果	
	①市民ワークショップの結果について ②複合施設(案)・付加機能(案)の検討について ③今後のスケジュールについて	承認 承認 承認	
議 事 の 経 過		別紙のとおり	傍聴者数 3名
会 議 資 料		(1)次第 (2)上尾市上平地区複合施設検討委員会 委員名簿 (3)資料① 上平地区複合施設に関する市民ワークショップ結果報告書 (4)資料② 上平地区複合施設における図書館分館機能 (5)資料③ 上尾市上平地区複合施設検討委員会 基本構想策定スケジュール (6)参考 保育所(園) 認定こども園 幼稚園ガイドブック (7)参考 上尾市の保育の現状について	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和2年3月16日			
		議長(委員長・会長)の署名	佐藤徹
		議長に代わる者の署名 (議長が欠けたときのみ)	_____

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
	開会（午後5時30分）
佐藤委員長	議題①市民ワークショップの結果について、事務局からの説明を求める。
事務局	資料①により、市民ワークショップの結果を説明。 【説明要旨】 ○第1回 ・令和元年12月21日（土）9時45分～12時、出席者51名。 ・グループワークでは、複合施設を作る際、複合施設の魅力を高めるために必要だと思う施設・サービスについて話し合った。 ○第2回 ・令和2年 1月11日（土）9時45分～12時、出席者49名。 ・グループワークでは、第1回で出されたアイデアを上平地区複合施設で実現させるための方法について話し合った。 ・上尾市上平地区複合施設検討委員会委員として、古沢輝氏及び岡村博憲氏を選出。
佐藤委員長	【質疑・意見】 実際に参加した古沢委員から、どのような様子であったか、感想を含めてお話しいただきたい。
古沢委員	同年代だけでなく、幅広い年代の方が参加しており、自分の出した意見が他の人と話していく中でより洗練されていき、楽しく参加することができた。また、自分にはない意見があり、勉強になった。
佐藤委員長	2回ワークショップが開催されたが、2回とも参加したのか。
古沢委員	2回とも参加した。
佐藤委員長	第1回と第2回でテーマやグループワークの内容が異なっていた。第1回ではワールドカフェの手法を取り入れ同世代の人や異なる世代の人と話をしたり、第2回ではさまざまな世代の方と同じメンバーになり、メンバー固定でグループワークを行なったが、グループワークの内容についてどのような感想を抱いたのか。
古沢委員	第1回の第1ラウンドは、同世代の人と話して意見が似ていたことが

発言者	議題・発言内容・決定事項
古沢委員	<p>多かったが、第2ラウンドはシャッフルし世代が異なるグループになったので、最初のグループで出なかった意見がたくさんあり、大変勉強になった。第2回は、最初から世代がバラバラだったので、第1回に基づいた意見であっても、第2回では違った形の意見になることがあり、色々な人の意見が聞けて参考になった。</p>
深堀委員	<p>事務局からの説明の最後に、「居心地の良い場所」という話が出た。そのとおりだと思うが、資料①の概要では、「オープンスペース」「レンタルスペース」「フリースペース」などのアイデアが出されている。概要に記載されている11のキーワードの中で、「1日中いられる」、「夜遅くまで使える」、「勉強できる」、「騒いでいい」、「来やすい」、「安全な」といった、どんな機能であっても共通して市民が欲しいなと思っている部分に関心があった上で、「過ごせる場所」というところを意識しているように感じた。</p>
佐藤委員長	<p>貴重な視点だと思う。</p>
小川委員	<p>第1回検討委員会では、行政の視点から13の施設に候補を絞っていた。それは、施設の老朽化などが理由としてあったが、今回、ワークショップで出された11のキーワードは、結果的に示されたのか、あらかじめ出たものかはわからないが、行政から出てこないような、非常に新鮮なアイデアがたくさんあって、ワークショップ自体が楽しいものだったことが伺える。</p>
事務局	<p>11のキーワードについては、事務局が後から付けたものである。第1回のグループワークでは、複合施設にあったらいいな、必要だなと思う施設やサービスについて、特にジャンルなどは問わず自由にアイデアを出していただいた。</p>
佐藤委員長	<p>テーブルは10テーブルで良かったか。</p>
事務局	<p>両日とも10テーブルに分かれて、話し合っていた。</p>
佐藤委員長	<p>各テーブル平均で5名程度に別れ、10テーブルが同時進行で議論が進められたということで良いか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
佐藤委員長	<p>第1回はテーブル毎にたくさん意見を出してもらい、それを11に分</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
佐藤委員長	<p>類し、第2回はこれに基づいてアイデアの深掘りを行なったということである。これらたくさんのご意見を今後、本検討委員会でどのように落とし込んでいくかという大きな宿題をいただいた気がする。</p>
金野委員	<p>キーワードをまとめていく作業は非常に重要だと思った。例えば、施設として目指していく理念のようなもの、例えば、いろんな人が許容できる空間が良いとか、どうやってみんなで管理していこうかということについても、もしかしたら今後のパブリックコメントに諮る必要があるかもしれない。機能を選定するというよりも、もしかしたら理念のようなものを作っていくという方向性もあるのではないかと思ったので、その辺りをどういうふうに今後も進めていくのかということを含めて検討をした方が良くと思う。</p>
事務局	<p>冊子の15ページから24ページまでに記載されている意見の中からピックアップしたものが資料①に概要として記されている。概要の興味深い点として、令和元年5月に実施した市民アンケートの内容と似た意見でまとまっているという点があげられる。サービスを実施する場所として、フリースペース、多目的スペース、ロビーといった色々なことに転用できるスペースが意見として出された。さらに、これらのサービスを上手く活用するためにどのような運用ができるのかという設問に対して、市民の皆さまが自主的に使えるようにしたり、ボランティアの力を借りたりするというように、自分達で行うべきだという意見が非常に多く出た。これらの意見をサービスとしてどのように構築するのかという課題はあるが、事務局である施設課には建築技師が多く在籍しているので、令和2年度にはゾーニングのような形でお示しするような方法も考えている。</p>
佐藤委員長	<p>非常に多様なご意見をいただいたが、その中で共通したものをコンセプト化していくという方向性をご意見としていただいた。また、用途を限定しない活用方法というのも、多くご意見として出ていた。その他、思いついた点があれば、後日で構わないので提案して欲しい。</p>
佐藤委員長	<p>次に、議題②複合施設(案)・付加機能(案)の検討について、事務局からの説明を求める。</p>
事務局	<p>第1回検討委員会の中で、検討の前提条件として、「13施設の候補の中から複合化する施設を決定すること」や「図書館分館機能を有する複合施設とすること」を説明した。審議の中で、直接担当課からの説明を受けたいというご意見があったので、上尾市上平地区複合施設検討委員</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>会条例第7条の規程に基づき、上平保育所としらこぼと保育所を所管する保育課と、上平公民館図書室及び図書館分館機能を所管する図書館に対し、出席し説明することを求めている。</p>
佐藤委員長	<p>まずは、保育課から説明を求める。</p>
保育課	<p>参考資料により、保育所の現状を説明。</p> <p>【説明要旨】</p> <p>○上尾市全体の保育の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童（0～5歳）の推移：平成23年4月11, 647名、平成31年4月10, 253名。（1, 394名減少） ・保育需要（新規申込者数）の推移：平成23年4月803名、平成31年4月1, 067名。（264名増加） 女性の就労率の高まりが原因と予想される。 ・合計定員数の推移：平成23年4月2, 256名、平成31年4月3, 548名。（保育の受け皿を増やしている。） <p>○将来的な保育の需要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『統計あげお』による9歳までの人口の推移：大谷地区以外は減少傾向。 ・将来推計でも大谷地区は増加傾向。（区画整理、周辺に大型商業施設が立地。） ・上平地区は人口推移、将来推計ともに減少傾向にある。 <p>○上尾市の待機児童数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月の段階で15名。 ・継続して待機児童対策に取り組んでいる。 ・公立保育所のニーズは高い。（保育の継続性、園庭の広さ、経験のある保育士が多い。） ・待機児童解消の課題として、地区毎の需要と供給の隔たりが挙げられる。（上尾駅、北上尾駅周辺部の需要の高まりに対して供給量が追いついていない。市境の保育需要の高まり。） ・保育士不足も課題。 ・育休明けの1歳児が待機になりやすい。 ・土地の確保の難しさも課題である。 <p>○公立保育所の建物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所は、高度経済成長期に建てられたものが多く、建設から40年～50年が経過し、維持管理費も年々増加している。 <p>○昨今の保育にまつわる動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から子ども子育て支援新制度がスタートし、保育の受け皿の拡充を進めてきた。（待機児童解消や少子化対策が目的。）

発言者	議題・発言内容・決定事項
保育課	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、全国的に待機児童の解消が進まず、国の政策転換により令和元年10月1日から幼児教育保育の無償化が開始。(保育所や幼稚園の3歳から5歳について無償。ただし、幼稚園は上限あり。少子化対策を目的。) <p>○上平地区の保育所の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所は、上平保育所としらこぼと保育所の2箇所。 ・上平保育所は昭和53年築。(41年経過) ・しらこぼと保育所は昭和47年築。(47年経過) ・両保育所で耐震診断を実施。上平保育所のIs値は0.72であり、安全性が担保される数値である。(基準値は0.6) ・しらこぼと保育所は、耐震指標であるIs値が1階の一番低い場所で0.23、2階部分で0.13であった。この数値は、新耐震基準と比べ数値が不足しているため、今後の対応が課題となっている。 ・しらこぼと保育所の対策として、令和2年4月1日からしらこぼと保育所の児童を上平保育所に移動し、保育を実施する方針である。現在は、適宜、保護者に対して説明し、理解を求めている状況である。 <p>【質疑・意見】</p>
高橋副委員長	<p>しらこぼと保育所は、3月いっぱい閉鎖するということが良いのか。</p>
保育課	<p>しらこぼと保育所をすぐに閉園するのではなく、まずは休園という形で考えている。今後の保育のニーズ等をみながら、今後、しらこぼと保育所をどうするか考えていきたいというところである。</p>
高橋副委員長	<p>今後、子どもが増えれば再開するのか。</p>
保育課	<p>しらこぼと団地周辺エリアについて、将来を含め保育の需要が高まるのか検討する必要がある。また、その施設が公立である必要があるのかも併せて検討する必要がある。しらこぼと団地は埼玉県の所管になるので、埼玉県住宅局や関係部署等と協議を重ね、今後どうするかという部分の方針を固めていきたい。現時点では、その部分の検討が足りていないので、休園という措置で考えている。</p>
佐藤委員長	<p>その検討は始まっていると思うが、いつ頃一定の結論を得るのか。</p>
保育課	<p>現状は、しらこぼと保育所の児童を全員上平保育所に移動していただき、安全な保育を提供するという部分を最優先で検討しており、具体的な検討の部分については、来年度以降になると考えている。</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
佐藤委員長	<p>上平地区複合施設の検討に関わるのでお聞きするが、公立であることを含めて来年度いっばいに結論を出すということで良いのか。</p>
保育課	<p>その通りである。本検討委員会での進捗状況も十分に考慮した上で、来年度のしかるべきタイミングで方針を定めたい。現状は期限を示せる状況ではないが、方針の状況が進捗過程においてお話しできる状況であれば、本検討会でも説明したい。</p>
金野委員	<p>これまでの説明は、13の候補施設の中で、保育所が個別管理という視点で検討が必要だということだと思うが、保育所自体が複合施設に関係しているのか、あるいは保育機能をサポートするような、例えば子育て支援センターや児童館のような、保育所とは違う枠組みとして何か補完するようなものを考えていくということなのか、議論の前提を確認したい。</p>
事務局	<p>本検討委員会での検討は、新図書館複合施設を建設しようとしたことから始まっている。その後、事業を推進していた当時の市長が逮捕され、現在の畠山市長が当選した。畠山市長は、費用が高額すぎることを理由に、新たな複合施設を建設することを前提に見直しすることを表明した。見直しの際には、市民の皆さまの意見を聞きながら、新たな複合施設をどのような施設にするのかを1年半から2年程の期間で検討しようというのが、本検討委員会である。</p> <p>検討の前提として、新図書館複合施設に統合される予定だった施設や、事業予定地の周辺で耐用年数が近づいており、複合化することで経費削減が図れる施設など、13施設を絞り込み候補としたところである。</p> <p>ただし、上尾市の公共施設マネジメントの方針として、複合化の際には多機能化も行うこととしている。その中で、市民の皆さまが箱ではなく、サービスとして可能な限り複合施設に盛り込むためにどのような方法があるのかを考えたのが、市民ワークショップの結果である。</p> <p>基本的に複合する施設については13施設を基に検討するが、そこにフリースペースなど市民ワークショップでいただいた意見をどのように詰め込んでいくのかと検討していただくという内容である。</p> <p>そこで、保育課からの説明のとおり、しらこぼと保育所は現状として、耐震制度が低く、耐用年数が残り7年となっている。これから耐震補強を行なっても、工事後、4年程度しか使用できない。さらに現在の試算でも1億円から1億5千万円の費用が想定される中で費用対効果などを勘案し、しらこぼと保育所に関しては児童の安全性や保護者の方々の利便性を最優先に考慮し、現在の園舎は原則今後使う予定がないという情</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>報が追加された。</p> <p>その状況を踏まえた上で、複合化する部分に保育所を入れるのか、議論を重ねているところである。</p> <p>さらに、同じ上平地区にある上平保育所も複合施設の対象となっている。基本的には複合化しても待機児童が解決されないうちは、現存する保育所はすべて耐用年数まで使い切るという方針もある。</p>
佐藤委員長	<p>13施設の候補は、行政内部で議論したものであり、必ずしも市民の意見を踏まえたものではないので、1つの軸として考えるが、一方では市民ワークショップでいただいた意見も踏まえて、本検討委員会で検討していく必要がある。</p>
鈴木委員	<p>昨年12月に耐震診断の結果が出て、4月から子ども達の安全を守ることを最優先に考え、閉園ではなく休園としたことや、今後は公立である必要があるかを含め埼玉県と一緒に検討していくという説明は、道筋としてしっかり考えられていると感じた。急な話で保護者はびっくりしたと思うが、安全を第一に考え、現状のままにしないというのが重要である。複合施設にしらこぼと保育所が入るかは別であって、しらこぼと団地の立地について県と話し合うという保育課の説明は、よく理解できた。</p>
高橋副委員長	<p>しらこぼと保育所は埼玉県の施設なのか。</p>
保育課	<p>建物は市の所有である。敷地は、県から無償貸与されている。</p>
高橋副委員長	<p>自由に建て替えることができるのか。</p>
事務局	<p>自由に建て替えはできない。しらこぼと団地は現在、約40%は空室である。県は、しらこぼと団地が北上尾駅から近いので、若い世代を誘致できないか検討している。保育所の存続だけでなく、公立で運営するのかを含めて検討しているので、県の動向をみながら保育課としても検討を進めていく考えである。</p>
高橋副委員長	<p>なぜそのような状況で休園なのか。耐震補強ができれば活用する予定なのか。</p>
事務局	<p>閉園は建物を残さないという意味になるので、現時点では休園としている。保護者の方からは、わかりづらいという意見も出ていたので、現園舎を再利用する予定はないとう表現で、今後説明していく。</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>公共施設マネジメントとして、費用対効果についても検討している。耐震補強を行なっても現園舎は4年程度しか使用できない。また、新築すると約4億円の費用がかかる中で、費用的にも時間的にも難しい。その中で、上平地区複合施設への複合化も踏まえながら建物として再生するのか、サービスとしてどこかに移すのか、本検討委員会も含めて議論をしていただきながら、上平地区複合施設に必要であればそこに入れ、現在の場所で再生する必要があるれば、民間活用を含めて保育課を中心に検討していく必要があるという意味である。</p>
佐藤委員長	<p>保育課の説明も事務局の説明も、口頭のみなのでイメージするのが難しい。しらこぼと保育所には、色々なパターンがありそうなので、わかりやすく資料にまとめて説明していただき、議論の素材としたい。</p>
事務局	<p>しらこぼと保育所については、1月に保護者への説明を行い、要望を返し始めたのが2月になってからであったため、資料の準備が間に合わなかった。次回の検討委員会では、資料としてお示しさせていただきたい。</p>
佐藤委員長	<p>本日、欠席している委員もいらっしゃるので、次回、資料を用意していただきたい。</p>
鈴木委員	<p>公立である必要性とは、どのようなものなのか。</p>
保育課	<p>通常の保育の提供であれば、充分、現在の民間保育所にもノウハウがある。公立の必要性とは、地域の核となるような保育の拠点として、私立保育所への支援や相談業務を行い、周辺の保育所に伝えていく役割を配置することであると考える。</p>
鈴木委員	<p>もし、上平地区複合施設にしらこぼと保育所と上平保育所を複合した場合、2園が1園になり、保護者にとっては通いづらくなることもあると思う。しかし、今後の検討の中で、存続する可能性もあるのか確認したくて質問したところである。</p>
事務局	<p>誤解を与える表現をしてしまった。上平地区複合施設に上平保育所としらこぼと保育所を複合した場合、両園ともすぐに閉園というイメージを持たれるかもしれないが、保育所は35年後に、公立は7園程度にし、その他は民間保育所にするという目標を掲げている。その中で、どこに公立保育所を設置するのかという話で、上平地区複合施設に公立保育所を入れるのかというところを議論している。いずれ、耐用年数が到来し</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>たら現在の保育所は無くなってしまいが、それまでの期間は待機児童や保育ニーズを鑑みて、必要であれば併存していくものである。現在の保育所を無くして上平地区複合施設に入れるという訳ではない。</p>
佐藤委員長	<p>同時並行で、サービスとして残ることもあるという事か。</p>
事務局	<p>その通りである。上平保育所の数値は良く、コンクリート造であるため中性化で残存年数を見直すことも可能である。</p>
小川委員	<p>しらこぼと保育所と上平保育所の定員はそれぞれ80名であり、すでに両園の来年度の児童数は把握していると思うが、両園の児童数を合わせても上平保育所での保育が可能ということの良いのか。</p>
保育課	<p>上平保育所には単独の遊戯室があり、この遊戯室を保育室として活用することで、しらこぼと保育所と上平保育所の両園の受け入れが可能であると考えている。また、新入児童については、部屋の都合上0歳児の受け入れは控え、1歳児の受け入れは行うことを考えている。</p>
小川委員	<p>予想では、何名になるのか。</p>
保育課	<p>5歳児が卒園し、現在通っている全ての児童が上平保育所に移動する場合の人数は104名である。ただし、1歳児以上の受け入れの可能性があるので104名以上となるが、今後、転園や退園の可能性もあるので人数は変わることもある。</p>
佐藤委員長	<p>では、次回の検討委員会でも引き続き説明をお願いします。</p>
佐藤委員長	<p>続いて、図書館から説明を求める。</p>
図書館	<p>資料②により、上平地区複合施設における図書館分館機能を説明。 【説明要旨】 ○上尾市図書館の本館と分館（室）の機能の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上尾市は1本館、5分館、3公民館図書室が配置されている。 ・本館は、基本的な図書サービスの提供に加え、資料の収集・整備や事業の企画・管理を一元的に行い、分館を統括するなど図書館サービス網の核としての役割を担っている。 ・分館は、基本的な図書サービスの提供に加え、図書館サービスを地域に広げる窓口・地域図書館としての役割を担っている。 ・図書館は、多様化・専門化する市民ニーズにこたえるため、幅広く

発言者	議題・発言内容・決定事項
図書館	<p>さまざまな資料、情報の収集・提供に努めていくというのが現状だが、近年では、特に学習スペースなどの滞在性のある、また誰にとっても居心地のよい空間づくりが求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新図書館複合施設の見直しにより、改めて今後の図書館の目指すべき姿を描くべく、基本的な方針となるあり方について、図書館協議会に諮問し、審議している。 ・来年度は、そのあり方を具現化するためにどのようなソフト、事業を展開していくのかをまとめたサービス計画の策定に向けて取り組んでいく予定である。 <p>○図書館協議会の検討経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、4階の協議会を開催。 ・令和元年7月に、市民アンケート調査を実施。「気軽・身近・居心地」というキーワードが出された。 ・「目指すべき姿」、「留意すべき点」について審議中。 <p>○上平地区複合施設における図書館分館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会からの主な意見は次のとおり。 「上平公民館図書室との集約を図るべき。」 「単なるサービスの平行移動でなく、機能の充実が必要である。」 「サードプレイスとしての空間を創るのに良い場所である。」 「他施設や他部署との連携による事業の活性化に繋げる。」 「ITに特化するなど特定の機能を持たせることも考えられる。」 ・図書館網の地域窓口である分館機能の役割を担うべく、基本的な図書館サービスの実施を前提とする。 ・複合施設の内容や規模に加え、地域の特性を考慮したサービスの実現を図る。 ・図書館協議会での審議を踏まえ、キーワードとなる「気軽」「身近」「居心地」を具現化すべく、試験的な取組みやサービスを積極的に実施していく。
小川委員	<p>【質疑・意見】</p> <p>上平公民館は上尾市で最初に建てられた公民館である。円形の非常に凝ったデザインだが、会議室が半円形になっているため非常に使いにくい。教室形式の会議や研修が行えない状況である。その奥にある上平公民館図書室は長方形のデザインになるので、上平公民館図書室が上平地区複合施設に入れば、空いたスペースを会議室として活用できる。また、上平支所も移転すれば、公民館機能は更に充実すると思う。上平公民館図書室への不満は、上平公民館全体の不満の表れだと思うので、上平地区複合施設に複合化した場合の充実化についても検討していただきたい。</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
鈴木委員	<p>分館の蔵書は、同じようなものなのか。上平公民館図書室に対して不満が多いということだが、蔵書を動かしていないからではないか。</p>
図書館	<p>上尾市の分館の蔵書は、例えば上平公民館図書室では児童書の比率が比較的高いなど、それぞれ若干趣が異なり、分館が全て同じ状況ではない。蔵書の動きについては、分館の規模が大きくはないため、本の入れ替えや特色のある蔵書配置を行うなど、ソフト事業として魅力を感じるような工夫はしていないといけないと考えている。</p>
佐藤委員長	<p>資料②内、「1. 上尾市図書館の本館と分館（室）の機能の考え方」の《本館・分館機能のイメージ》で記載されている分館のサービスの中で、上平公民館図書室が有しているものは何か。</p>
図書館	<p>イメージ図にある「貸出・返却」、「リクエスト・予約」、「レファレンス」、「相互貸借」、「集会・イベント」の5つ全ての機能を有している。</p>
事務局	<p>補足として、図書館分館ではなく分館機能と言っているのは、図書館として、今までのように書架を設け蔵書を置くというサービスで良いのかという点がある。見直しとなった新図書館複合施設も、これからは憩える場所を作るということをメインに考えられていた。見直しとなった後に市長自ら各分館を視察して、本を借りている人が少ないことや、もっと対話できるスペースを増やした方が良いという感想を抱いている。イメージとしては、市民の皆様から多く出たオープンスペース、フリースペースのような場所に、例えば、本棚を並べて本も読めるしそこで活動もできるようにしたり、要望の多い電子図書に限って特化してみたりとか、そのような形で分館にはこれがなければいけないということにはこだわらないような複合にしよう、という意味で分館機能としている。従って、図書館の機能が入れば、図書館の職員が何らかのサービス提供を行うが、あくまでも既成の図書館には拘っていない。</p> <p>もう一点が、公民館図書室についてである。（※公民館図書室は、上尾市では分館と同じ位置付け。また本館や分館と開館日に差は無い。）図書館分館と公民館図書室を一つにして、本も読め、その他の憩える図書館を持たせるのかということ、今後、本検討委員会で詰めていき、色々な意見をいただきたいと考えている。</p>
佐藤委員長	<p>ちょっと話がややこしいが、事務局が説明したことが重要で、議論の前提となる部分である。上平地区複合施設では、図書館分館機能を有することはマストになっているが、図書館分館を置くことはマストではな</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
佐藤委員長	<p>い。</p> <p>分館機能が何かというのは、資料②の《本館・分館機能のイメージ》に記載されているが、既存の機能以外に新しい使い方もあるのではないかなど協議会からの意見で出されたサービスについて機能の充実を望む意見を、どのように解釈するのか重要である。必要最低限のものが網羅されていれば良いのか、もう少し絞り込んで特色を出して現在の公民館図書室で行なっている機能を充実させた方が良いのかなどを考えていく必要がある。</p>
金野委員	<p>市全体の蔵書の中で、上平地区複合施設をどの程度の規模として位置づけるのが重要である。本が流動していない問題に対しても、小中学校や高校にある図書室も含めて、全体として流動させる仕組みを確立するという役割を果たしうるかもしれない。それは単純に蔵書を何万冊増やすというのではなく、市内の何万冊の蔵書を動かしていく役割になるという視点もあるように思った。初期の蔵書もそうだが、購入費は毎年かかるものであり、それをどのように組み立てていくのか、或いはどのように市として回していくのか、そのような試みを挑戦的に行う場所としてみるという考え方もあるのではないか。</p>
図書館	<p>そのような考え方もあると思う。現在も図書館が核となり、学校との連携を行なっている。限られた予算の中で、子ども達に新しい本を読んでもらいたいと考えており、学校支援という形で各学校に本を巡回するサービスを実施しているが、本をうまく回していくことも必要であると思う。</p>
深堀委員	<p>分館と分館機能は異なるものとして理解したが、特化する部分を地域の方からどのように引き出すのか。市民ワークショップや図書館協議会で意見が出ているが、コンテンツの面で特化させる方法や、サービスのあり方で特化させる方法がある。コンテンツの場合、図書室で眠っている資料や歴史的な資料、郷土資料などをコンテンツとして特化させたり、複合化するか決まっていないが、保育所であれば絵本や子供向けの本で特化させたりするなどの方法がある。また、サービスの面でも、学びの施設として、例えば地域の歴史文化がキーワードに挙げられたが、分館機能のレファレンスを簡易なものではなく、分館の資料を使って本格的な研究ができるような仕組みを整備して学びの場を提供する。最近では、台風被害などの防災情報を、図書館の資料だけでなく、市民と連携してコンテンツを収集するなど、コンテンツとそのサービスのあり方を特化する方法を、深く議論できると良いと思う。そこをどのように的を絞るのか、継続して意見を集めて決めていくのが課題である。</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
深堀委員	居心地の良い空間というのは基本的な部分であり、売りとなるメインの部分は、核となるものがないといけないと思う。図書館分館機能として、基本的な機能を何でも揃えてしまうと全体的にぼやけてしまうので、大胆に方向を決めて、その上で居心地の良い空間を整えた方が良いのではないか。
佐藤委員長	特化のさせ方は、一つではないかもしれない。その後の絞り方もいくつか方法があると思う。
金野委員	最近の図書館では、例えばビジネス支援に特化して、会社設立を助けたり、そのような活動をするスペースを併設したりするところもある。そのような図書館では、司書がまちのキーパーソンのネットワークを把握しており、繋げる役割を果たしている。また、施設内で子どもが騒ぐことが問題になっている図書館では、切り離す面積がないため、子どもの施設と一緒に図書館の子どもの部分を移行するという事例もある。このように、地域の特色を取り込んでいくことが可能性としてあると思う。
深堀委員	騒げる図書館として、アイデアを出していくと面白いと思う。
事務局	市民ワークショップでも、子どもが騒げるという意見が出ていた。
図書館	<p>ちょっと外れてしまうかもしれないが、図書館は、静かなところで本を読んだり、貸し借りしたりするという考え方から、新たに学習スペースなどの空間づくりが求められている。現状では、ビジネス支援は出来ていない。敷居の低い図書館にさまざまな人々が集まって、公民館などと連携した事業を行うことで、交流が生まれ新たな学びにつながり、新たな価値を生み出すという考え方になりつつある。また、騒ぐというキーワードについては、話しても良いという方向で動いている図書館もある。時代の変化とともに大きく変わりつつある中で、上尾市として特化させることは難しいと思うが、上平複合施設でそのような支援ができるのかを検討していかなければならないと思う。</p> <p>協議会の中で、例えばスポット的な役割が機能の一部として考えられるが、上平地区複合施設と上平公民館図書室が併存することは、同じ地域に機能が2つあることになってしまう。それならば、同じ機能を一カ所に集約し、機能を充実させようという流れになっている。最終的にどのようにしなければならぬか判断するのは難しいが、協議会の意見としてハイブリットなものを望んでいるのは事実であると思う。</p>
深堀委員	市民ワークショップのキーワードの中で「防災」のことが出ていたが、

発言者	議題・発言内容・決定事項
深堀委員	<p>必ずこの意見に対しては答えていく必要があると思った。交流スペースを使っていくという考え方の中で、防災と兼用になる作り方を検討してほしい。机や椅子は、可動式や可変式にしてスペースを確保することができると思う。</p> <p>先日、茨城県神栖市にある「かみす防災アリーナ」を視察した。台風の影響が出た際に、施設が破損したため市民の避難者の受け入れを行なわなかったなど、防災施設としての対応ができずに批判を浴びていた。施設としては、コミュニケーションコリドーという交流スペースを広く設けている。その中では、照明が一体化された座るスペース、プランター、書架などが複合されたパーツで置かれており、それぞれがキャスターで動くようになっている。必要な際にはそれらを一気に動かし、可変の空間を作り上げることができるようになっている。日常の使い勝手の良い場所として居心地が良いということと、防災機能を一体化することが、市民ワークショップの意見に答えていくためには必要だと思う。</p> <p>先ほど、台風時に施設が破損したため対応できず、市民から批判されたという話をしたが、防災機能を施設に取り込むと、それなりの責任が生じる。中途半端な機能の備え方をしてしまうと、大きな問題が生じる可能性がある。例えば、収容する人数の設定など、防災に関する機能をどのように複合施設に盛り込めるのかというのが課題であると思う。</p>
佐藤委員長	<p>地域防災計画との関連も確認する必要があるかもしれない。</p>
鈴木委員	<p>これからの時代を考えると、孤立していく人たちが増えていく中で、どのようにつなげてコミュニティを形成していくのが課題であり、人と人が支え合える関係を築けるようすることが考えられたら良いと思う。命を大切にするという意味では防災につながると思う。居心地の良さを皆が求めているが、世代間で交流することは難しくもあるので、未来を考えると子どもたちのための子育て支援施設が上平地区複合施設に入って欲しいと思う。子どもたちのことを全ての世代の人が考えることで、つながりを持つような拠点があれば良いと思うので、子育て支援施設は大事であると思う。</p>
事務局	<p>まさにそのとおりである。台風19号は上尾市にも大きな被害をもたらし、防災については市民の皆さまから要望をいただいている。市では、上平地区複合施設建設予定地の東側にある上尾市民球場に、多くの防災備品を備蓄している。球場部分は市の所有だが、球場と予定地の間の土地は、甲子園の予選の際に臨時駐車場として借りている。台風19号の際に、市役所の駐車場は水没予防のために開放していたため満車となり、その後のボランティアの受け入れに苦労した経緯がある。予定地は、球</p>

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>場の臨時駐車場と一体利用することで、例えばボランティアセンターや災害時の臨時駐車場として活用できるように提案し、取りまとめていきたい考えである。</p> <p>その中で難しいのは、箱としてどのような施設を作るのかという部分と、どのようなサービスを入れ、誰がそのサービスを実施するのかという部分がリンクしないことである。複合化する部分を例えば、保育所とした時に、保育所の職員は施設に入るが、共有スペースを誰が管理するのが問題になる。そこで生きてくるのが図書館分館機能であり、分館としてできることや、同様に支所も市のさまざまな業務を行なっているため、これらを活用しサービスとして実施することが可能であるか、ぜひ本検討委員会で協議していただき、検討委員会として上平地区複合施設の間取りやサイズ、提供できるサービスを提案していただきたい。</p>
古沢委員	<p>災害対策については、ボランティアで集まった方の居場所がなかったり、長期的に滞在できなかったりする問題があるので、そのような機能を有した施設になれば良いと思う。また、市外で災害が発生した場合に、ボランティアが集まり、派遣するような拠点になれば良いと思う。</p> <p>図書館に関しては、紙媒体の図書を置くだけでなく、電子媒体のものを配置するのも良いと思った。また、桶川市では図書館に民間の本屋が併設されているので、一つのあり方として参考になれば良いと思う。</p>
佐藤委員長	<p>続いて、議題③今後のスケジュールについて、事務局からの説明を求める。</p>
事務局	<p>資料③により、今後のスケジュールを説明。</p> <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討委員会は、4月中旬の開催を予定。 ・次回以降、複合施設の候補及び付加機能について本格的に審議。 ・検討委員会としての案がまとまったら、パブリックコメントにて市民意見の抽出を行なう。 ・複合施設の候補及び付加機能が決定後、基本構想案を検討委員会で審議。 ・検討委員会としての基本構想案がまとまったら、パブリックコメントにて市民意見の抽出を行なう。 ・令和2年10月上旬を目途に、基本構想の最終案を報告。 <p>【質疑・意見】</p>
佐藤委員長	<p>市民ワークショップの報告書を分析し、今後の絞り込みや特色の出し方の参考にしていきたい。</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
佐藤委員長 事務局 事務局	<p>続いて、議題④その他について、事務局からの説明を求める。</p> <p>本検討委員会の会議結果は、会議録を作成し公開することを説明。 また、第3回検討委員会の開催は、4月中旬を予定している。追って日程調整することを説明。</p> <p>閉会（午後7時05分）</p>